中村俊定文庫
文庫 18
463

跋

誹諧觴後編二卷者所輯宗匠之真蹟而既拳諸梓其在存義側則不敢許其真蹟誠可惜矣於是摸寫其句括之墨痕及印蹟以補後編之缺別為一卷私

附劄厥以為家藏而已時
明昧庚寅仲冬之吉
江都滑稽後学 雪成識

有無菴

中村文庫

宮内省

宮内省

中村文庫

馬場存義

長三点 朱五、 [illegible] 七、

[illegible] 十、

響字 十五、

廿五点 追而顯

十八、

獨歩菴

交 買明

十九、

九、

九十、

五十、

圖二點長三、朱五、

槙壺 七、

鶴金樽 十八、

十九、

百雪岳樓

槙立山ヲ添テ十八、

鶴立澤ヲ添テ廿、

廿一、

古物商買帳

木屋菴

朝ハ烏帽子
鏡照月
鼻の岸
利大倉
吉平 地名
海を渡て
高の与
むつ
作保ち
よ物あるら

谷口樓川

海ハ桂更衣せ
桂の浜市ヲ
高ほつ
神ヲ
浜舟の
高ハ
貸
紫陽
衣濃
味醂
濃
百
桂の

長三、朱五、

孫竜　七、

面白作　十、

感人心　十五、

冥奏　第一　十八、

撥醒　廿、

絶断　廿五、

いかなりけん　橘川

伽羅庵

弾き方なり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

長三點 朱五、

無翼飛 七、

無足而走 十、

無耳可使鬼 十五、

金銀米錢 五十、

吉無不利 十八、

三十点 二福神

獅子眠

谷口雞口

長三點　朱五、

富士川陳閑叟　七、

菱屋司昨心中盡十、

平賀鈴峯　十五、

本題鈴見酉

四瑞鎮百鍋炎　十八、

深月庵

三上祇丞

強弱変化
秋の句四都
彩於宮
以来
神を宿し
樹あるを
思ひ
よろし

圈 二點 長 三、朱 五、春昌為群 十八、

百民昌 七、

閑舞有嚴 九、

十、

稻荷之舞 十五、

萬物為師 三鳥傳

新樹庵

花隈多少

圈二點長三、朱五、

顏彩雙　七、　亟幽曉　十八、

翠紋雲如　十、　鄭公ヲ添テ　九、

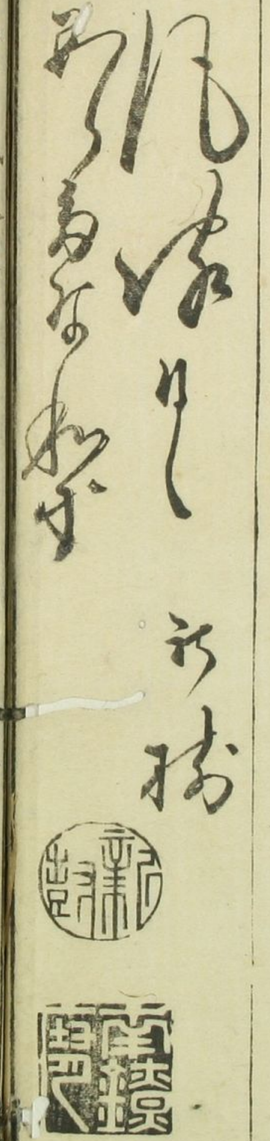
十五、

響字

二点增

九五、

元南情



樂成庵

作ノ子ノ作家
一一貫ノ哭
の行ノ持ノ
秋教の句
ノ拙如
景色も
結ノ

藤中温克

食枝を岩ノ女宮
公逢ハ子ノ
雲ノ作ノ
衣と面ノ
母の世ノ
毛蓋の中ノ寺ノ
並松ノ地ノ
切ノ業ノ
ノ玄の作ノ
門ノ
梅ノ
玉ノ
降ノ

長三點 朱五、 淋鄙

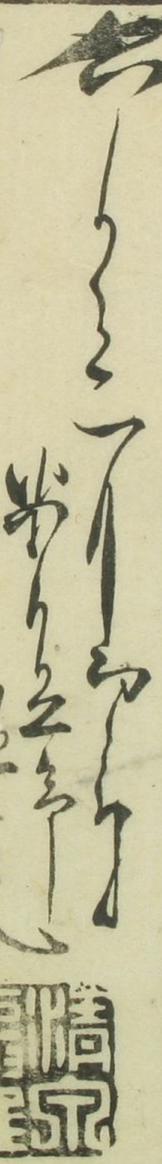
暮山紫 七、

加九、

十八、

霍汀梟猪 十、

蘭亭 加十五、 高点追テ露ス



露成

北在轉

鵜山 十五、

菊湖 汁計 楽屋 鮫 猿 三 人 奥 振 木 六 鴨 鳴 焼

向ひ合る 実もろ〳〵て本賀より一ト廻り 来る下女の念カ 鑢ハ江戸出てさん人 病れ人も交りて 十八、 芝居の白もて多福ありもく考へ入べし 波阜長京川 石和川伊勢 勝の名和なり

兎の王 狩 箱根の世を重ね 駕籠の代 波 十九、 地獄へ切 駕籠の代 波 十九、 駕籠 人より駕 京 静 出家の法 捉へ照射の乃を張直し 浦 汁 汐場 妻も 二度諸 尼 河の題を取事 嫁の屋住 ト

圖 二點 長三、朱五、

七、 十、 十五、 十九、 二十、 二十五、

三十點五十點押物
追而顕スベシ

自在菴

仲祇德

圖 二點 長 三、朱 五、

神田菴

強弱交ゴ
古人乃名
家人の名
乃名をす
論語をそ
むすゑし
ものを
得し人を

木村小知

眉齋

和らかなり
麻砧菊
翠の句
源氏にもよし
伊勢物語
尼の句
綺語
絵と雑也
法師なり

田女

一年のなかさはめでたき春の曙
山くれ雪解ところなし川
たのみのこしこ秋のおもしろき
垣ねなんくさいつまの葉ほどく
稲妻は母の乳くさきそのあはれ
依りなく手折よしても寒女の猶
母よしむしもわれらもせ
恋いちこそきるわれ　嶺
舞もなく生まれ嬉しき一年
任のけしめは字り　と
かぎるふ秋御々の坂屋めね世
吉原の昊　柳とつるし若まで　右ス
こともなくの供を秋めとわるなり
恨人くもしくて氷るきくるめ
伊勢の常まする嫁の山がり

圏　二點　長　三、朱　五、

車輪玉　七、　黄鶯　加十、

金泥書　三光　十五、弓更下

同　揚彩　十六、

同　花屋弥絵　億、

己お帳　神田庵

句メ肩印　十八、

長三點　半五、　毒賦　七、

黃鐘　大簇
變大簇　夾鐘　九五点ノ
姑洗　變姑洗　譜
仲呂　六音

穴呂　十、

半呂　九、

蕤賓　十五、

林鐘　十、

夷則　十五、

南呂　十、

無射　十八、

八音　三十点

押物樂器
十八点以上皆同

枝十八点ヨリ
總テ金泥ニテ書

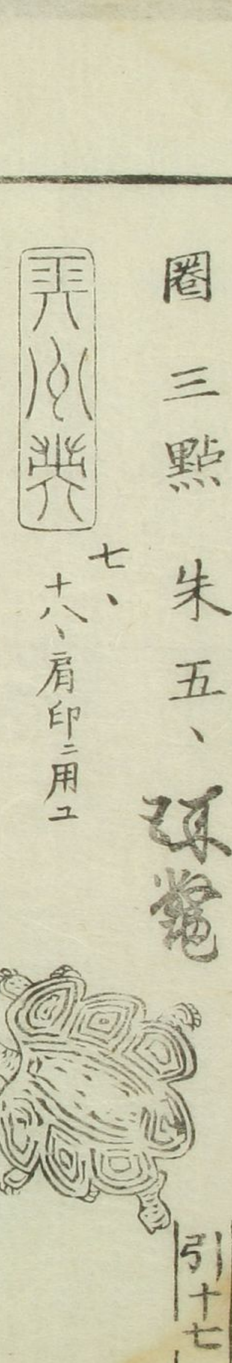
九点
二ハ些器加フ

石壽觀

壽秀國

余の湯を沸かすこと久しく
方寸と称する数を定めしより年経
入相よりくきし風の二人を
わさうるや似さ結ひ
庭よきこえの
相の炉
四月の
二月
四月朔日
居

圈三點 朱五、



七、十八、肩印ニ用ユ

十、九、肩印ニ用ユ

十九、

九五、肩印ニ用ユ

十八、九、九五、共ニ同

引十七、

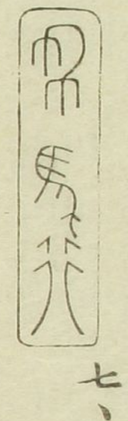
元夫庵

強き白髮の
秋の白も
よ綿
及ばぬ
白髮
白と
考て

大葦原可因

稼多れ跡もと同し井を汲
と浴をとらん食の蕪てけ
拾ひ拾ふ拾ふ米貝はくし
麦苅よ出る大麦の細ユ人
の思ふ恋も唖の表もしい
子の雪よ織る表の機の雪
裳裳りて病奴市袋
少取る明りて胡生形ける
子の雪と四葉
計死と出る稗の雪と白拓子
仕切の出さ白れ形仕しる生
病白を秀よ戻る小白れ
実引る内儀の帯の解る王
君の代を矢挟る君京女帝
義経破船の貝の稚まはき

長三點　朱五、

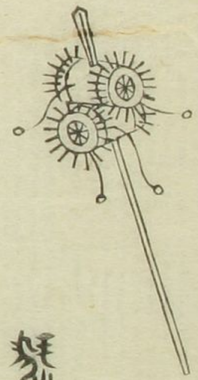


七、

十、

十五点御音字

無比類　三十、



十八、

廿五、

連莖菴

志村常仙

和歌の句
俳句の中の
やのやうなし
歌の句
江戸の地名
子兎
菴茅屋の
ひもろぎ
遠ぐし

十五、

廿、

圈 二點 長三、朱五、

金蕊屋露 七、

東儀 潘桃 十八、

壺中不城 十、

十五点 響字

弐片蘚盞巴

九九、

丙辰夫

句を寂て修
へ
松舟ゆく春
物もなし
心のさこう
ゆ
ゆ

木村金洞

妹の旅風亡柔や逝ける人
号の世変へ這入る誓願寺
池田まて住く蓑尾の陸の春
江の唐と蓑の付くり
三里もまて寸変稿の供
卿は日記字治殿へ信ス
三月ハ皆居ル舟浜下り
向ひ風や鼓馬の傍と吹出る
春風に相打つけく雲の峰
清流へ枝の雪霜を志賀のさなえ
日盆人の撞くも三井の陸の春
盆桃の湯まめ女伏見の女
清水結ばけく 宗世 出る
三吟て飲む 小原 亀

圈 二點 長三、朱五、

所自流　七、　月輝必照寄　十八、
梅之影空澄
遠江玉書蓋

東風吹梅　十、

一枝の花松十五、　和歌一首　廿、

肩巾

梅之加印　廿二

雖然也

元是一結句の外合

丙辰夏

雲洞

西月庵

笠家宗梅

和歌の道の古人の名引抜大将殿しの紅の句宗鑒主盛梅の句もしらしらぬ人なく寄　異色

仕之

長三熙朱五、

柯亭樣 七、

嶧山土圭 十、

十五、響字

高点追テ露ス

扇室帽 十八、

扇面

宗播

戎王子

北村葵足

圏　二點　長三、朱五、

嵩玉　九、

連壐鑑　七、　十、

一顆幾價珠

十五、響字

非玉居　九五、

丹鶴

寒華

弘道

雨夜庵

强弱交るゝ
景色植物
秋の句すゝめし
句を利せはり
はりしつく
住よ曲し

十五、　十八、　九、　廾五、

張物を濡らく通ふ蓑めしひ
さそひし八うな取続けし　雪の人
豆腐らし賞する遣ふる　丈　門
蒼切て燐へ嫁乃　門きゝみ
吸付く川坂し　濡す草の畜
投射れ年毎夜渡りくく
之人傘さしよふさん　拾る
通ひ母女子はつし数さしそて
料理人ふ休りぬ神の中子みゆく
女房の捨てまさ田もなす川の女
子の名八六有きて遣ふる燒
出るし出る子を嗅そもり
門香と直切せし去のとと之番　馬
夏様の神の中くし子の起さ
却ちゝ生しよし八四日よて

峡田菊堂

長 三點 朱五、

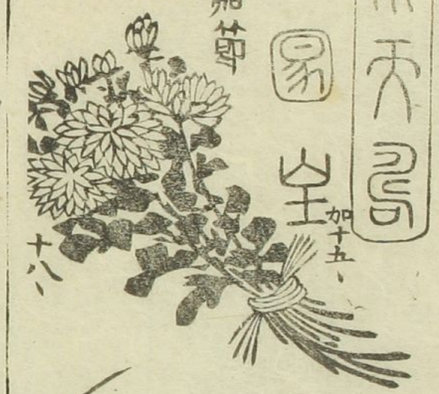
黄金米 七、

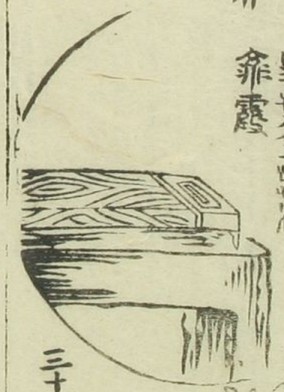
西北天高 十、

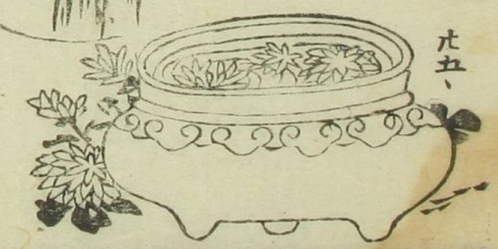
易 坐 加十五、

重九雇嘉節

重九雇嘉節
嘉葉金蟲瓶
兼霞







十八、

三十、

九五、

月 和 寅 寅 雨 又 蘭 竜

星霜菴

和うるを喜ぶ
ものすくなし
はるべし
迎さ地名
飛鳳巷紙
のくるま
多く
きらるて

十五、

熊谷白頭

万家の立ちそれぞれ
戸障子の切り又
附は走一分と
編笠を屋根
又森の幽
を美く
峰より
の頼よ
の撫へ
婦人の
て蛍
山の
人々

十八、

女
子
婦
調
干
赦
稀
深
山
の
湯
屋
に
吸

九、

花
の
ま
ま
の
桃
の
ま
ま
自
然
に
佛
分
山
伏
の
見
伝
み
医
者
の
紙
で
拭
小
袋
の
ま
ま
を
衣
と
り
て
家
に
出
て
妻
の
姿

三點 朱五、

七、

十、

十五、

十六、

十七、

十八、

十九、

三呼菴

河野夫天

十五、

秋風とそよぐ竹の葉の音と共に人の心を引き立てる物なり

十六、

男子の指しさす方に赤子大きく成り

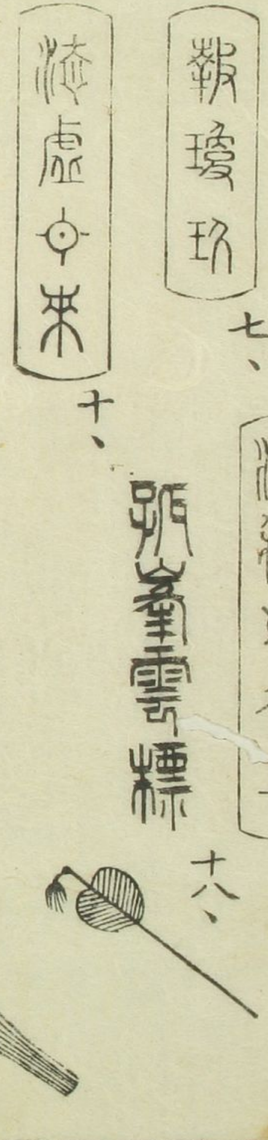
十七、

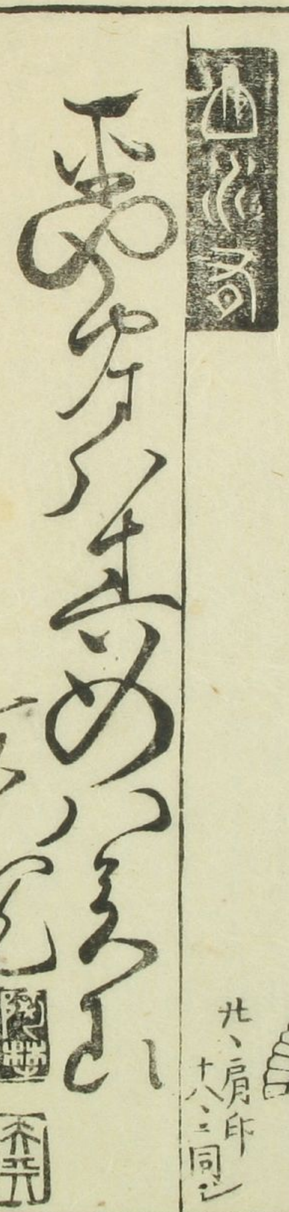
雪の中の蓮の葉の雪の輪を見て

十八、

氣を抜く緣遠き武士の

長三點 朱五、





太平菴

道具ハ指南録ニ曰一ツ黄色ニ寺藻ニ仕ル生れの白を元合て〻〻又ハ切け合色する白を〻〻すハ赤〻れ〻〻義ニ此の〻味の白

〻ニ長あり是赤地名道ニ紅ニ道を〻〻あり

大町連馬

琴ハ徒て嫌狩ハ徒て嫌泥象場の雨竹枝ハ級ハ〻〻蓋く葛籠笠西へ〻る町ハ陳〻く後立て藤芝居中〻と〻〻蓋られて桜陰屋ハ金人の目を芝〻琴の舎ハ指ひ〻〻〻〻殺法師〻〻〻る日ハ眼の屋む紛嫌狩下駄の歯ハ思へハ相の一葉より〻〻ハ〻て皆所の動く蓋爲ハ〻〻〻〻ハ〻を〻る稜儀今〻〻〻〻の鞠かむ法陽堂裸子〻ハ〻ひ〻〻〻〻〻〻の白ひの〻〻る数の〻ハ物士を泊〻〻さハ〻〻市赤牛巳の毋ハ法地の松の〻

長三、朱五、

[illegible] 七、

一日尺里 十、

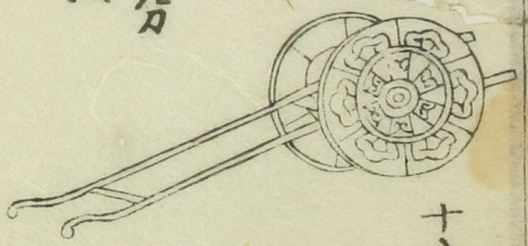
十臭、響字
朱書假字長短 十五、

[illegible]

蹠 跟
蹻 高

高点ノ分
追顯

十八、



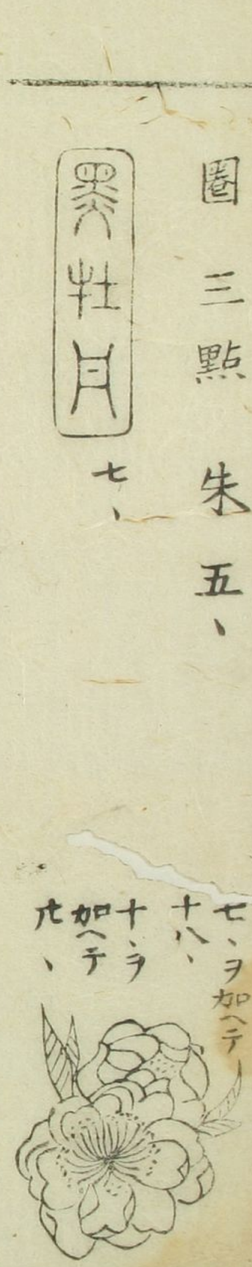
矩久齊

[illegible]べしをもの地名よ
[illegible]の句
[illegible]

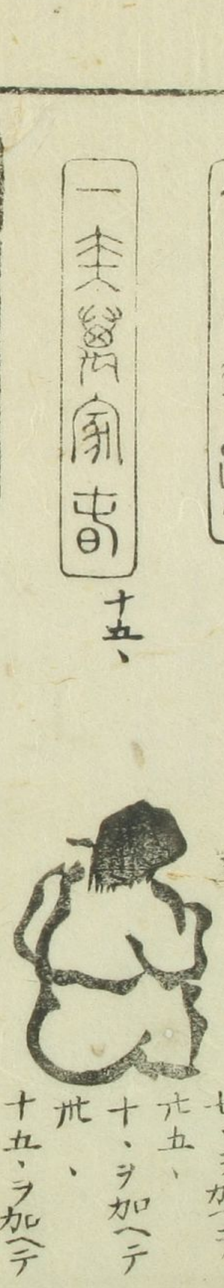
本間保牛

[illegible]

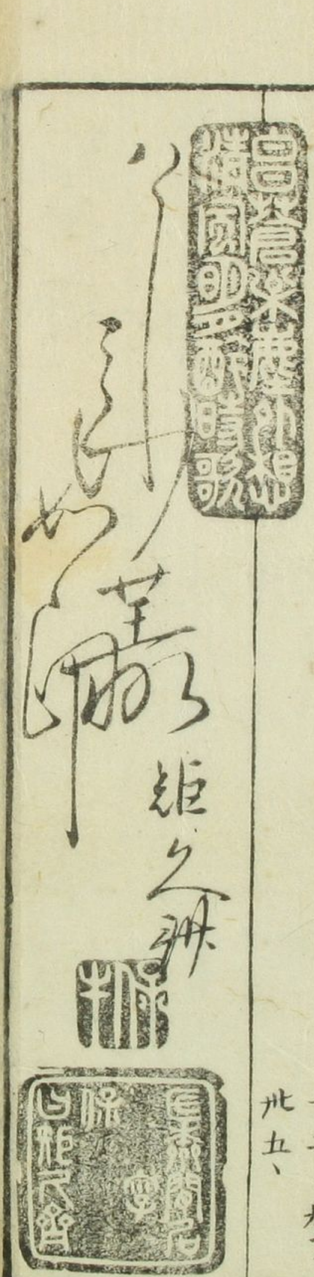
圖三點朱五、



七、ヲ加ヘテ十八、十、ヲ加ヘテ九、



七、ヲ加ヘテ九五、十、ヲ加ヘテ九、十五、ヲ加ヘテ九五、



無極菴

坊城留倫

長三寸朱立

博古圖說 西倫 [illegible]